



## テーマは「福島県のお米」

昨年、福島県内のスーパーなどの店頭からお米が姿を消し、その後、価格が高騰するなど、生産者、消費者のお米への関心が一層高まりました。

そこで今回は、「福島県のお米」をテーマに、2025年農林業センサス結果（概数値）と令和7年産の水稻収穫量調査から現状を探ってみたいと思います。



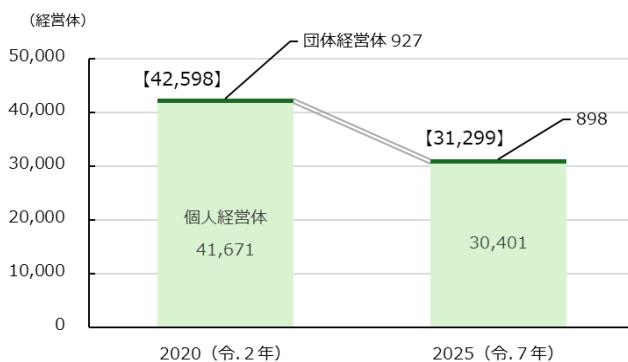
### 2025年農林業センサス結果（概数値）からみた福島県の現状

はじめに、「2025年農林業センサス結果の概要（概数値）（令和7年2月1日現在）」が令和7年11月28日に公表されましたので、福島県の農業構造について確認してみましょう。

#### （1）農業経営体数

農業経営体数は3万1,299経営体で、前回からの5年間で1万1,299経営体（27%）減少しました。これは、農業経営体の大部分を占める個人経営体が大きく減少したためです（図1）。

図1 農業経営体数（福島県）



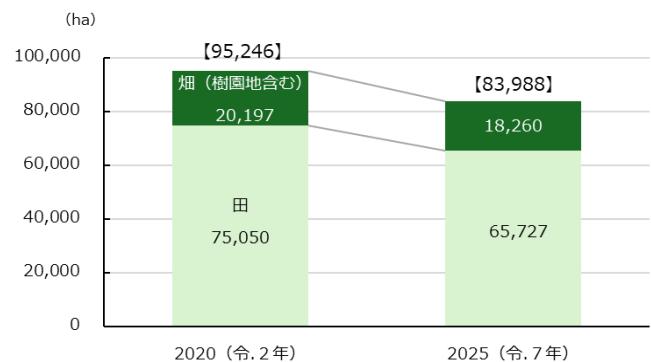
出典：農林水産省「農林業センサス」を基に東北農政局福島県拠点が作成（図1～4同じ）。

#### （2）経営耕地面積

経営耕地面積は8万3,988haで、前回からの5年間で1万1,258ha（12%）減少しました（図2）。

これは、猪苗代湖の面積（1万324ha）の約1.1倍に相当します。

図2 経営耕地面積（福島県）



注：統計値については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

#### 「ふくしまの棚田」推し活フェアが開催

[<棚田関連 P5「福島県拠点フォトレポート紹介」もご覧ください>](#)

コラッセふくしまで開催された「ふくしま棚田推し活フェア2025」に出かけてきました。

会場では、福島県内6つの棚田で収穫されたお米が販売されており、棚田の生産者の方が、お米の特徴を丁寧に説明してくれました。どのお米もとても魅力的で、迷いに迷った末、妻と相談し、4つの棚田のお米（一ヶ月で食べきれる量）を購入しました。

我が家では「美味しいね」という言葉と笑顔が増え、また、食べ比べる楽しみが、家族の会話を豊かにしてくれました。

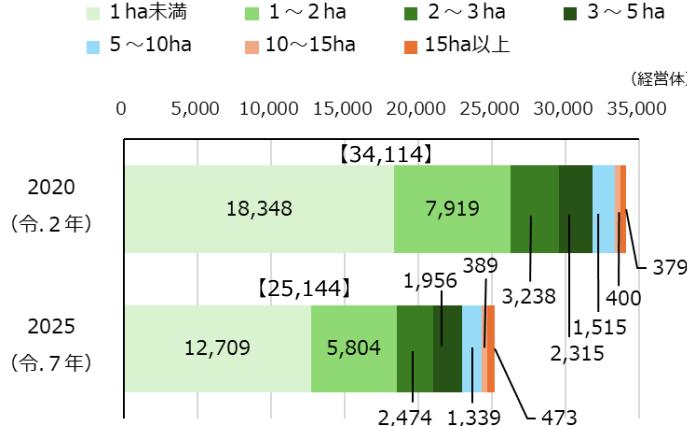


### (3) 販売目的で水稻を作付けした農業経営体数

販売目的で水稻を作付けした農業経営体数は、2万5,144経営体で、前回からの5年間で8,970経営体（26%）減少しました（図3）。

また、水稻作付面積規模別に農業経営体数の増減率をみると、5年前に比べて15ha以上の階層で農業経営体数が増加しました（図4）。

図3 販売目的で水稻を作付けした経営体数  
(福島県)



注： 棒グラフ上段の【 】は販売目的で水稻を作付けした  
経営体数である。

## 令和7年産の水稻作付面積

令和7年産の水稻総作付面積（青刈り面積を含む）は7万300haとなりました。

主食用米の作付面積<sup>注1)</sup>は、主食用米の価格高騰などの影響により、備蓄米や飼料用米からの転換が進んだことから6万7,000haとなり、前年産に比べて1万500ha（約19%）増加しました（図5）。

市町村別の主食用米作付面積<sup>注2</sup>をみると、郡山市が7,764haで最も多く、次いで喜多方市が5,300ha、会津若松市が4,791haとなっています。

主食用米作付面積の前年対比の分布をみると、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により被災した市町村において増加率が高くなっています。

これは、営農再開による作付増加や飼料用米からの転換によるものです。また、会津地方では主に備蓄米からの転換により増加しました(図6)。

図4 水稲作付面積規模別農業経営体の増減率  
(福島県)

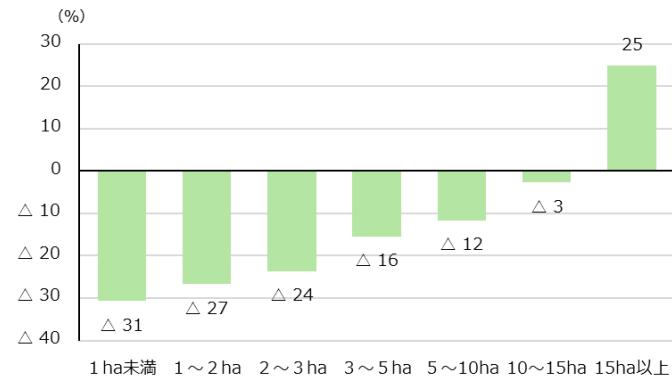
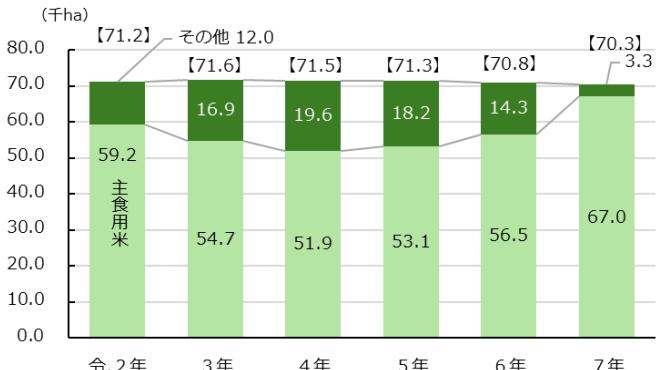


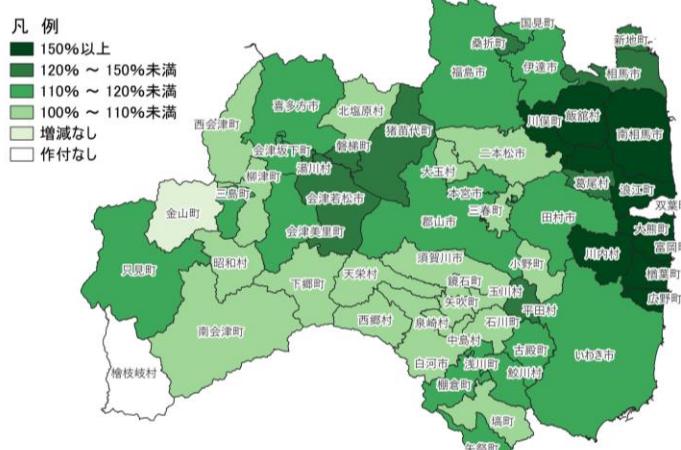
図5 水稻作付面積の推移（福島県）



出典： 農林水産省「面積調査」を基に東北農政局福島県拠点が作成。  
注： その他は、備蓄米、加工用米、新規需要米等である。

図6 令和7年産市町村別主食用米作付面積の前年比

図3 札幌・平塚市町村別生食用地耕地面積の前年比



出典： 東北農政局「水田における作付け状況」を基に東北農政局福島県  
拠点が作成

注1：主食用米の作付面積

作付面積調査により把握した青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

### 注2：市町村別の主食用米作付面積

地域農業再生協議会が把握した面積である。



## 令和7年産水稻収穫量調査（生産者が使用しているふるい目幅ベース<sup>注3</sup>（1.85mm））

福島県内に250か所の調査ほ場を設置し、実測調査を実施しました。

令和7年産の10a当たり収量の分布状況をみると、550kg～600kgの区分に属するほ場の割合が21.6%で最も多くなりました。

一方、550kg未満のほ場は47.2%、600kg以上のほ場は31.2%となっています。このように標本筆の10a当たり収量は幅広く分布しています（図7）。

また、継続して実測調査を行った標本筆の10a当たり収量を前年産と比べると、増収した割合は51.1%、減収した割合は48.9%となりました。

のことから、調査結果には前年産から増収したほ場、減収したほ場の10a当たり収量が反映されています（図8）。

この結果、令和7年産の福島県の10a当たり収量は554kgで、地帯別では中通りが540kg、浜通りが525kg、会津が590kgとなり、前年産を5kg～13kg上回りました（表1、図9）。

令和7年産の主食用米の収穫量は37万1,200tとなり、前年産に比べ6万2,700t（約20%）増加しました（表1、図9）。

令和2年産以降、新型コロナウィルスの感染拡大により需要量が減少し、民間在庫が増加、米価が下落した結果、作付面積が減少し、令和4年産の収穫量は27万5,100tとなりました。

その後、米価が回復したことを受け、令和5年産から主食用米の作付面積が増加した結果、収穫量も増加に転じました（図5、9）。

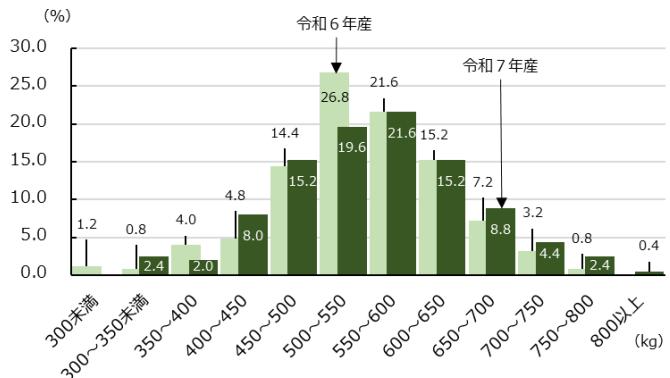
### 注3：生産者が使用しているふるい目幅ベース

過去5か年に生産者等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値であり、福島県のふるい目幅は1.85mmである。

### 注4：5中3平均

前年産までの5か年中、最高と最低を除く3年間の平均である。

図7 令和7年産水稻作況標本筆の10a当たり収量の分布状況（福島県）



出典： 農林水産省「作況調査」を基に東北農政局福島県拠点が作成（以下同じ）。

注： 生産者が使用しているふるい目幅ベース（1.85mm）である（以下同じ）。

図8 令和7年産10a当たり収量の前年比較（福島県）

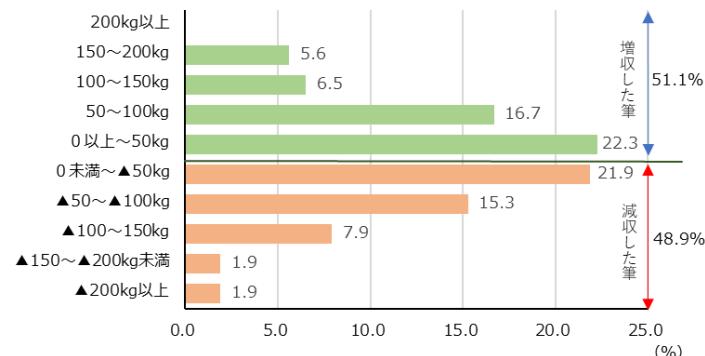


図9 10a当たり収量、主食用米の収穫量の推移（福島県）

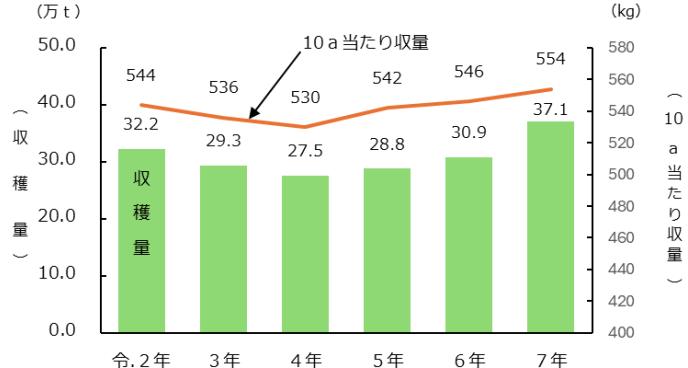


表1 令和7年産水稻の作付面積（主食用）、10a当たり収量及び収穫量（福島県）

区分	作付面積（主食用）		10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅で選別：1.85mm）					収穫量（主食用）	
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	前年産との比較 対差	5中3平均 <sup>注4</sup> との比較 対差	作況単収指 数	実数 ③=①×②	前年産との比較 対比
		ha	ha		kg				
福島県	67,000	10,500	119	554	8	13	102	371,200	120
中通り	...	...	...	540	13	17	103	...	...
浜通り	...	...	...	525	7	18	104	...	...
会津	...	...	...	590	5	10	102	...	...



## 令和7年産水稻市町村別10a当たり収量（参考）<sup>注5</sup>

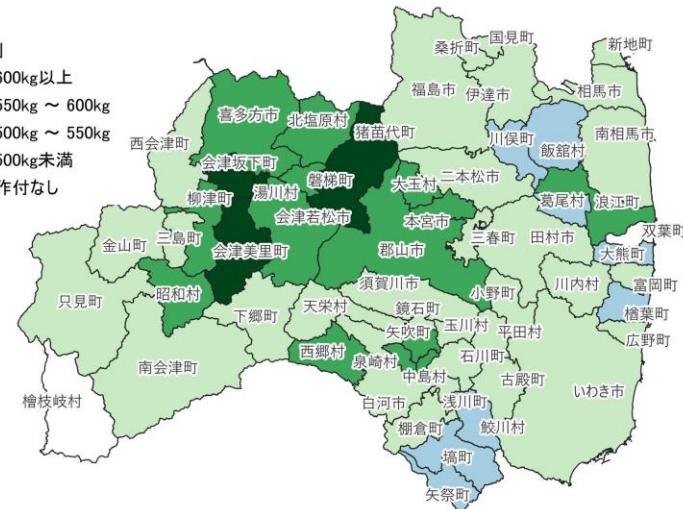
令和7年産水稻の市町村別統計が公表されました。このうち市町村別10a当たり収量（参考）をみると、湯川村が607kg、猪苗代町が606kg、会津坂下町と会津美里町が603kgで、600kgを超えており、中通り中部から会津北部の市町村にかけて10a当たり収量が高くなっています。

一方、阿武隈高地に位置する市町村では、500kg未満のところも見られます（図10、別表）。

### 注5：市町村別の10a当たり収量（参考）

令和7年産水稻市町村別統計で公表している「生産者が使用しているふるい目幅1.85mmで選別」した10a当たり収量である。

図10 令和7年産市町村別10a当たり収量（参考）  
(生産者が使用しているふるい目幅ベース(1.85mm))



出典：東北農政局「令和7年産水稻市町村別統計」を基に東北農政局福島県拠点が作成。



## 令和7年産米（令和7年10月31日現在）の検査結果

令和7年産水稻うるち玄米の検査数量は、20万2,720tで前年産に比べて1万7,324t（前年同月比109%）増加しました（表2）。

水稻うるち玄米の1等米比率は、92.1%で前年産を3.1ポイント上回っています（表3、図11）。

2等以下に格付けされた主な理由は、カメムシなどによる着色粒や乳白、腹白などの形質及び整粒不足によるものです。

### 図11 水稻うるち玄米の等級別比率（福島県）

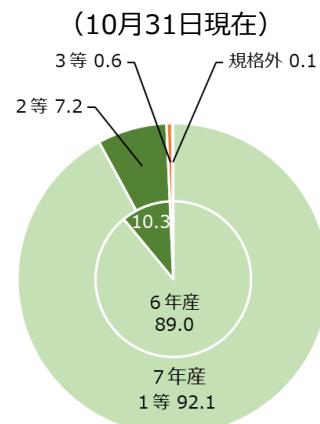


表2 検査数量（福島県）（10月31日現在）

単位:t, %

区分	令和7年産	対前年 同月比	令和6年産	令和5年産
玄 うるち	202,720	109	185,396	180,884
	2,191	87	2,526	2,427
	2,571	105	2,459	2,514
計	207,482	109	190,381	185,825

出典：東北農政局「令和7年産米の検査結果（速報値）（福島）」を基に東北農政局福島県拠点が作成（表3、図11同じ）。

注：各年産とともに生産年の10月31日現在の値である（表3、図11同じ）。

表3 水稻うるち玄米の等級別比率（福島県）

（10月31日現在）

単位:t, %

区分	検査数量	等級別比率			
		1等	2等	3等	規格外
令和7年産	202,720	92.1	7.2	0.6	0.1
令和6年産	185,396	89.0	10.3	0.6	0.1
令和5年産	180,884	76.4	21.9	1.5	0.1
7年産 - 6年産	17,324	3.1	-3.1	0.0	0.0
7年産 - 5年産	21,836	15.7	-14.7	-0.9	0.0

注：等級別比率については、表示単位未満を四捨五入しているため、計が100にならない場合がある。



## まとめ

2025年農林業センサスによると、販売目的で水稻を作付けした経営体数は2020年から約4分の1減少しました。一方で、水稻作付面積規模別農業経営体数は15ha以上の階層が増加し、大規模経営体に耕地の集約化が図られています。

水稻作付面積（青刈り面積を含む。）は令和2年産以降、約7万haで横ばいで推移しており、経営体が大幅に減少する中でも作付面積は維持されています。令和7年産では、米価の高騰などにより飼料用米などの非主食用米が減少し、主食用米の作付面積と収穫量が約2割増加しました。

今後は、生産者が再生産可能な米価を確保しつつ、消費者が購入しやすい価格が実現するよう、需要に応じた生産に取り組む必要があると考えます。



### 「会津の棚田米応援セット」のお披露目会、販売会が開催されました（2025年11月）

J A会津よつばファーマーズマーケット「まんま～じゃ」（会津若松市）で、会津地方の3つの棚田（喜多方市の「こづちやま棚田」、「ほんそんの棚田」、北塙原村の「川前の棚田」）で収穫された「会津の棚田米応援セット」のお披露目会、販売会が開催されました。

福島県では、貴重な棚田を保全するため、複数の地域で様々な棚田振興に取り組んでいるほか、それぞれの団体においても田植えや稻刈り体験、オーナー制度のイベントを通じて、棚田の情報発信にも力を入れています。

今回は、若い世代にも棚田に興味をもってもらうため、パッケージデザインを会津若松ザベリオ学園高に依頼し、1年生が田植え体験等を経て、棚田の魅力あふれるラベルをを完成させました。「まんま～じゃ」の販売会では生徒も一緒に販売し、用意した50セットは1時間で売り切れるほど好評でした。



棚田米セットの販売を開始します

(写真は、福島県会津農林事務所から提供いただきました。)



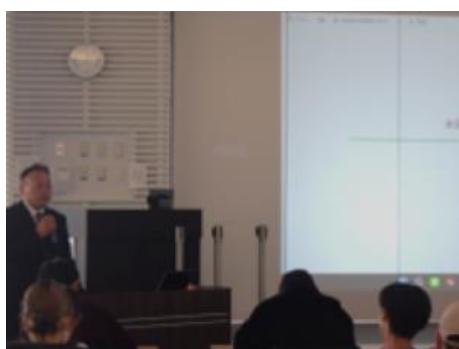
会津の棚田米応援セット（コシヒカリ300グラム×3）

### 福島県農業総合センター農業短期大学校で「米政策」及び「みどりの食料システム戦略」の講義を行いました（2025年12月）

福島県農業総合センター農業短期大学校において、同校の教育計画の一環として「米政策」及び「みどりの食料システム戦略」に関する講義を行いました。

当日は、2学年38名が参加し、農業に関する法規や政策について理解を深めました。

また、講義後には、卒業後の進路などについても意見交換を行いました。



講師の福島県拠点職員



熱心に受講する学生たち

福島県拠点「フォトレポート」は、こちらからご覧ください。  
<https://www.maff.go.jp/tohoku/tiiki/hukusima/index.html>



- お問い合わせ -

**東北農政局 福島県拠点** ☎960-8073 福島県福島市南中央3-36 TEL:024-534-4142 (内線210)

別表 令和7年産水稻市町村別統計

市町村名	作付面積 (子実用) ①	ふるい目幅1.70mmで選別		(参考) 生産者が使用している ふるい目幅1.85mmで選別	
		10a当たり収量 ②	収穫量(子実用) ③=①×②	10a当たり収量 ④	収穫量(子実用) ⑤=①×④
		ha	kg	t	kg
福島市	1,640	520	8,530	505	8,280
会津若松市	4,830	618	29,800	599	28,900
郡山市	7,910	573	45,300	557	44,100
いわき市	3,880	539	20,900	525	20,400
白河市	3,450	563	19,400	547	18,900
須賀川市	4,760	563	26,800	547	26,000
喜多方市	5,400	602	32,500	583	31,500
相馬市	1,900	539	10,200	525	9,980
二本松市	1,750	529	9,260	514	9,000
田村市	1,340	520	6,970	505	6,770
南相馬市	3,300	541	17,900	527	17,400
伊達市	961	520	5,000	505	4,850
本宮市	1,230	576	7,080	559	6,880
桑折町	380	535	2,030	520	1,980
国見町	346	538	1,860	523	1,810
川俣町	212	492	1,040	478	1,010
大玉村	864	578	4,990	561	4,850
鏡石町	836	556	4,650	540	4,510
天栄村	883	550	4,860	534	4,720
下郷町	322	543	1,750	526	1,690
檜枝岐村	-	-	-	-	-
只見町	378	558	2,110	541	2,040
南会津町	934	560	5,230	543	5,070
北塙原村	187	610	1,140	591	1,110
西会津町	539	538	2,900	521	2,810
磐梯町	399	608	2,430	589	2,350
猪苗代町	2,240	625	14,000	606	13,600
会津坂下町	2,590	622	16,100	603	15,600
湯川村	950	627	5,960	607	5,770
柳津町	257	580	1,490	562	1,440
三島町	37	522	193	506	187
金山町	100	543	543	526	526
昭和村	145	573	831	555	805
会津美里町	2,810	622	17,500	603	16,900
西郷村	836	566	4,730	550	4,600
泉崎村	721	571	4,120	555	4,000
中島村	519	597	3,100	580	3,010
矢吹町	1,240	577	7,150	560	6,940
棚倉町	908	556	5,050	540	4,900
矢祭町	306	506	1,550	491	1,500
塙町	544	504	2,740	489	2,660
鮫川村	220	498	1,100	484	1,060
石川町	807	533	4,300	518	4,180
玉川村	320	529	1,690	514	1,640
平田村	478	535	2,560	520	2,490
浅川町	545	551	3,000	535	2,920
古殿町	232	520	1,210	505	1,170
三春町	305	546	1,670	530	1,620
小野町	426	529	2,250	514	2,190
広野町	175	542	949	528	924
檜葉町	262	509	1,330	496	1,300
富岡町	152	536	815	522	793
川内村	120	541	649	527	632
大熊町	30	251	75	244	73
双葉町	-	-	-	-	-
浪江町	391	590	2,310	575	2,250
葛尾村	34	501	170	488	166
新地町	619	537	3,320	523	3,240
飯館村	116	451	523	439	509

出典：東北農政局「令和7年産水稻市町村別統計」を基に東北農政局福島県拠点が作成。